

新年を迎え新しい気持ちで3学期がスタートしました。2学期の終業式で、人間として自立への第1歩は任せにしないで自分の事は自分でする事、とお話ししましたが、どうでしょうか、やってみて気持ちがいいと感じる事はありませんでしたか？これからも、このことをいつも頭において生活してください。

自分が嫌な気持ちになったとき、自分に困ったことが起きた時、自分の前に大きな壁が立ちはだかった時、必ずイライラせずに冷静に考えることができて、自分にとってよりよい道が見えてくるはずです。

「自分がいる場所——家庭 学校 クラス 部活動 3年生の諸君は今年新しい居場所に自分の身を置くことになります、社会、国——自分がいる場所を自分にとってよりよいものに、自分がいいと思える場所にする」 このことをこれからずっと生きていく上でのテーマとして皆さんに投げかけます。

今日は皆さんに考えてもらいたいことがあります。東日本大震災が起こった、平成23年(2011年)3月、福島県で高校2年生、4月からは高校3年生となる明日香さんのお話を紹介します。

彼女の家は、おじいちゃんおばあちゃん、両親とも農家をしていました。自分も農作業の手伝いをしながら、自分でおいしい野菜やお米を作りたいと考えていました。特にバイオテクノロジーに興味があり理系を選んで、農学部に進むつもりでした。そんなときにあの震災と原発事故が起こりました。彼女の村は福島第一原子力発電所から30キロの圏内にあって村全体が避難区域となりました。福島県の農業の状況は一変してしまいました。村では農業はできなくなってしまいました。除染は進められてはいても、表土をはぎ取ってしまうと農地はなくなってしまいます。田んぼも畠も荒れるままにあり、祖父母も農家としての全てを失ってしまって避難所でじっと耐えている状況でした。明日香さんも自分の進路について悩み始めました。

悩みに悩んだ末に、農学部に進みました。除染した土地を農地に戻して活用できるようにする方法を研究しています。すぐに結果は出ません、また、いい結果が得られるかどうかわからない、研究から実用化されるまでにも多くの時間や壁があるかもしれません。でも毎日毎日、実験などがんばっているそうです。

今日皆さんに考えて欲しいことは、この明日香さんが進路を農学部に決定して、実際に農業としてやっていくまでには実現がなかなか難しい事にがんばれるのはなぜか？ということです。この明日香さんにこのように決心させたものとは何だったのでしょうか。皆さんそれが考えてみてください。

今日は皆さんへ問いかけをして、私の話を終わります。